

第 7 回 (2025 年度) ふしの干潟いきもの募金支援対象活動実績報告書

1. 申請者 (活動実施者)

氏名・団体名	カブトガニワーキンググループ リーダー 原田 直宏 (山口カブトガニ研究懇話会)
--------	---

2. 活動内容

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	山口湾カブトガニ幼生生息調査・観察会
活動目的	山口湾には、絶滅危惧種であるカブトガニが生息しており、その生息状況を把握し、保護を図ることを目的とする。また、干潟を体験できる機会を設ける。
活動について	<p>① 概要 山口湾長浜および南潟に生息するカブトガニ幼生の生息状況を調査した。</p> <p>② 当初計画との相違点 (スケジュール、内容等) 長浜においては、猛暑による熱中症の危険性から、調査を予定より約 1 時間早めに中断した。 南潟における幼生生息調査は、熱中症防止の観点から、調査時間を短縮して行った。(2 時間→1 時間)</p> <p>③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望 幼生生息調査は、長浜では 48 名が参加し、南潟では 15 名が参加した。 長浜では、20 レーンで 235 個体、南潟では、5 レーンで 46 個体の幼生を確認した。 熱中症対策について、テントの設置や、飲み物等の補給品の準備を行っていたが、近年の猛暑を受け、今後調査のやり方を変えていく必要がある。 参加者が安全に安心してできる調査方法を検討し、今後も継続して取り組んでいく。</p>

3 支出内訳

配分額	(精算払) 100,000 円	助成金額	(精算額) 33,567 円
予算の支出期間	2025 年 8 月 ~ 2025 年 9 月		
支出	応募案内中の表 1 : ①~⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	31,712	参加者飲み物 (長浜及び南潟分) 13,685 円 アイススラリー、塩分チャージ 12,408 円 単三電池 3,620 円 簡易担架 1,999 円
	保険料	1,855	カブトガニ幼生調査保険(60 名)
	合計	33,567	

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	榎野川流域連携促進協議会
--------	--------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動
活動名	榎野川河口干潟再生活動 2025
活動について	<p>① 概要</p> <p>2008年度から南潟において住民参加型の干潟再生活動を実施しており、活動は、例年春と夏にイベント形式で開催し、地域住民、企業、大学等の多くのボランティアの協力を受けている。</p> <p>(イ) 春の干潟再生活動</p> <p>4月26日（土）に以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実施日：2025年4月26日（土） ● 場 所：榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所 ● 主 催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ● 協 力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、水産大学校、山口大学 ● 参加者：143人（スタッフ込み） ● 内 容：榎野川の恵みを味わう試食会（山菜の天ぷら） 寄附付き商品の販売、募金活動 アサリ再生活動（被覆網のメンテナンス、アサリ稚貝の育成） アサリ保護網袋開封、生きもの観察会 <p>(ロ) 秋の干潟再生活動</p> <p>11月3日（月・祝）に以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実施日：2025年11月3日（月・祝） ● 場 所：榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所 ● 主 催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会 干潟・水産資源再生WG、持続可能な里海づくりWG ● 参加者：26人（スタッフ込み） ● 内 容：アサリ稚貝保全活動（アサリ稚貝保全用網袋を開封・放流） 生きもの観察会 <p>② 当初計画との相違点（スケジュール、内容等）</p> <p>概ね当初の計画通りに実施することができた。</p> <p>③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望</p> <p>春の干潟再生活動については、令和6年度と同様に多くの参加者にご協力いただき、けが等もなく実施することができた。漁獲可能なサイズ（3cm以上）のアサリが12kgも見つけることができ、参加者へアサリを配布することができた。</p> <p>秋の干潟再生活動について、令和6年度では、7月の暑い時期に行ったが、本年度は時期をずらし11月に開催したため、気候の煩わしさはなく、参加者は快適に調査を行っていた。</p> <p>また、ふしの干潟ファンクラブ限定イベントとすることで、ファンクラブの会員数増加につながった。</p> <p>榎野川流域の関係者の連携の象徴的な取組であり、親水性の向上にも寄与している取組であることから、今後も継続して取組を実施する。</p>

3 支出内訳

配分額	(精算払) 150,000 円	助成金額	(精算額) 46,934 円
予算の支出 期間	2025年4月～2026年2月		
支出	応募案内中の表1: ①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	40,704	ボランティア用飲料代(168本) 15,966円 試食会及び干潟活動関係品(天ぷら材料費、皿、箸、ガス等) 16,246円 協議会のぼり作成 8,492円
	保険料	6,230	干潟再生活動保険(春:200名) 4,515円、 干潟再生活動保険(秋:30名) 1,715円
	(備品・消耗品費)	(13,140)	寄附付き商品発注費(ふしの干潟せんべい) ※売上として収入があったため差引き0円
	合計	46,934	

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	ブルーカーボンワーキンググループ リーダー 山本 浩一（山口大学）
--------	--------------------------------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> その他、干潟等の保全・再生に関すること
活動名	アマモの再生活動およびアマモ見学会の開催
活動目的	① 概要 2025年5月に山口市秋穂二島長浜においてアマモ再生活動を行った。
活動について	② 当初計画との相違点（スケジュール、内容等） 2025年4月 第1回ブルーカーボンWGを開催（2026年2月に延期して実施） 2025年4月 被覆網によるブルーカーボン貯留量の評価（当初通り実施） 2025年4月 アマモ花枝採取・調査（当初通り実施） 2025年5月 第2回山口湾アマモ観察会（当初通り実施） 2025年8月 瀬戸内海研究会議で発表（当初通り実施） 2025年10月 エフエム山口取材対応（計画より新たに実施） 2026年2月 アマモ実生調査（計画より新たに実施）
	③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望 4月とアマモの花枝を採取し、5月にロープ法下種更新法という手法を用いて、一般の方とともにアマモの花枝設置した結果、2月のアマモ実生調査では、再生エリアで3.9倍の実生の密度を確認することができた。 他にも、被覆網に貯留されるブルーカーボン量を推定する方法を確立し、南潟でアサリ保護に使用している被覆網で評価を行った結果、Jブルークレジット申請に必要な貯留量の1/4の量を貯留していた。 今後も、アマモ場の再生及び啓発のため、継続して活動を進めていく。

3 支出内訳

配分額	(精算払) 50,000円	助成金額	(精算額) 50,000円
予算の支出期間	2025年4月～2026年2月		
支出	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	53,786	GPS 26,893円×2
	保険料	1,715	アマモ観察会保険（25名）
	合計	55,501	